

# 1. 指導及び受入・派遣支援報告（2013年4月～2014年3月）

バハウ・サイモン・ピーター  
副島 健治

## 1 はじめに

2013年10月1日より、富山大学留学生センターは発展的に解消し、「国際交流センター」と名称を変え、受け入れた外国人留学生に対して日本語教育などの指導をするというだけでなく、富山大学の学生を海外に送り出すという機能と役割を付加した意味合いを持つように位置付けられた。2013年4月～9月においては留学生センターの業務として、同年10月～3月においては国際交流センターの業務として、以下のような活動を行った。

1. 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言
  2. 富山大学の学生の海外留学にかかる支援
  3. 異文化間理解教育にかかる活動
  4. 外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動
  5. 地域社会との協力、連携にかかる活動
  6. 外国人留学生の日本での留學生活に関わる各種情報の提供、地域交流団体等が主催する行事の案内
- 留学生センター(2013年4月～9月)と国際交流センター(同年10月～3月)では、その業務の位置づけが異なる部分もあるが、小稿では両者を合わせて2013年度に行った主な業務活動として報告する。

## 2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言および、富山大学の学生の海外留学にかかわる支援

コンサルテーションアワーを毎週水曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を行った。また、水曜日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受け付けた。

相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援チームや「学生なんでも相談窓口」等と連携して対処した。

件数：(105) 件

うち外国人留学生に対する指導・助言(41) 件、日本人学生に対する指導・助言(60) 件

その他(富山大学教職員、卒業生、地域住民等からの相談)(4) 件

海外留学相談については、センター内に「留学情報資料室」を設置して海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の留学の相談にのっている。

主な希望留学先は、カナダ、アメリカ、イギリス、オーストラリア等の英語圏諸国、台湾、中国、韓国、タイなどであった。相談者の内訳は以下の通りである。

面談回数：200回

相談者数：105人

(内訳) 人文学部(29人)、人間発達科学部(23人)、経済学部(36人)、理学部(6人)、工学部(5人)、芸術文化学部(1人)、医学部(1人)、大学院(工)(4人)

### 3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

#### (1) 「日本事情」教育

日本語研修コース「日本事情」の授業に、日本人学生も参加してもらい、留学生との合同授業を行った。この授業は、教師を含む授業参加者相互の対話型（イナターアクティブ）の形態をとり、留学生自身のまなざしを通して、日本と日本以外の国の文化との異なる点および類似性の両方を認識するとともに、留学生がその違いを理解し、日本（富山）で学修や生活に活かしていけるようにすることが目的である。また、お授業の経験の中で日本人学生のサポートもあって、留学生の日本語学習自体も促進されてくという副産物も期待される。

#### (2) スタディ・エクスカージョン

前期と後期に各1回、日本文化への理解を深めるとともに、外国人留学生と日本人学生との交流を目的として、スタディ・エクスカージョンを実施している。

##### ・前期のスタディ・エクスカージョン

＜実施日・見学場所＞

2013年6月28日（金）

五百羅漢・富山市民俗民芸村

＜参加者数＞

外国人留学生 8人

日本人学生 2人

センター教員 3人 合計：13人

##### ・後期のスタディ・エクスカージョン

＜実施日・見学場所＞

2013年11月22日（金）

五百羅漢・富山市民俗民芸村

＜参加者数＞

外国人留学生 15人

日本人学生 2人

センター教員およびスタッフ 4人 合計：21人



(2013年6月28日(金) 民俗民芸村にて)

スタディ・エクスカージョン実施後に取ったアンケートによれば、参加した学生たちの満足感が高く、この企画が大変好ましく受け止められていることが分かった。

#### (3) ホームビジットとホームステイ

センターの日本語研修コースで学ぶ留学生を対象として、日本の家庭に滞在し異文化体験をさせるために、ホームビジットまたはホームステイを実施している。ホームビジットは富山市民国際交流協会（以下、「T C A」とする。）の協力と斡旋、ホームステイは公益財団法人とやま国際センター（以下、「T I C」とする。）の協力と斡旋により実現している。ホームビジットまたはホームステイのいずれかを体験するかは日本語研修コースに所属する留学生の希望に基づいている。

2013年度は、前期にホームビジット、後期にホームステイを実施した。

実施日・参加者数

前期のホームビジット：2013年8月3日（土） 3人（28期生）

後期のホームステイ：2013年1月26日（土）～27日（日） 6人（29期生）

プログラム終了後、学生は活動報告書をT C AとT I Cに提出した。

#### (4) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

センターの談話室は外国人留学生と日本人学生が昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。加えて、外国人留学生と日本人学生の交流を目的とした下記のような企画を開催した。

ハロウィンパーティー

<日時・参加者数>

2013年10月30日(水) 17:00～ 35人

## 4 地域における異文化理解教育等への協力

### (1) 地域における各種行事への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や自治体や公的機関等が主催する国際交流行事、地域の各種団体等が主催するその他の行事等において、その要請に基づき、講演や参加依頼・協力依頼があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

平成25年度センター教員が参加・協力した主な国際交流行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
市民講座	H25年10月8日	TCA	講演（英語）
富山インターナショナルフェスティバル	H25年11月10日	TCA・TCI	ブース出展
国際コースセミナー	H25年12月21日	富山県立富山南高等学校	ワークショップ講師
富山インターナショナルエクスチェンジ新年交歓会	H26年1月19日	TCA・TCI	参加
平成25年国際交流TCAカレッジ	H26年2月6日	TCA（総務企画委員会）	講演
「国際青年育成交流」帰国報告会&料理交流会	H26年2月23日	TCA	参加

また、学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については「平成25年度外国人留学生と地域との交流状況」（本誌p.62）を参照されたい。

### (2) 自治体等との連携

2013年度は、TCAおよびTIC（前出）を訪ね、ホームビジット、ホームステイに関する実施要項の見直しをはじめとして、今後のさらなる協力関係構築のための打ち合わせを行った。

## 5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留学生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内をセンターの談話室に掲示している。

## 6 オリエンテーション

### (1) 学部新入留学生のためのオリエンテーション

学部教職員や学生支援グループ等の協力により、全学のオリエンテーションとは別に、学部新入留学生を対象としたオリエンテーションを実施している。また、2013年度からは希望すれば大学院生も参加できることとした。後期のオリエンテーションには新規来日の大学院生も参加できるようにした。

#### <実施日時・場所>

2013年4月2日(火) 9:30~13:45 黒田講堂会議室

#### <参加者>

新入留学生 25人(うち大学院生3人)

教職員(留学生センター教員, 学部教職員, 学務部職員(留学支援チーム・学生支援チーム))

#### <オリエンテーションの内容>

- ・ガイダンス
  - 1 授業料, 授業料免除, 奨学金等についての説明
  - 2 留学生センターからの注意事項(危機管理等)
  - 3 学部教職員からの注意事項(大学生活の心得, 除籍・懲戒・退学・休学, チューター制度, アルバイト等)
  - 4 キャンパスツアー
- ・懇親会(昼食)

### (2) 新規来日非正規生(研究生, 科目等履修生, 特別聴講学生)のためのオリエンテーション

学部留学生(正規生)のオリエンテーションとは別に, 研究生, 科目等履修生, 特別聴講学生を対象としたオリエンテーションを実施した。

#### <実施日・場所・参加者数>

2013年4月10日(水) 留学生センター2階カウンセリング室 3人

2013年10月9日(水) 共通教育棟4階A43教室 28人

#### <オリエンテーションの内容>

- ・学内・学外における諸手続きについて
- ・学生生活について
- ・留意事項・危機管理について

### (3) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学間もない学部新入留学生のために, 時間割作成の支援として, 学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

#### <実施日・場所・参加者数>

2013年4月5日(金) 17:40~19:00 共通教育棟1階C11教室 20人(協力した先輩留学生8人)

## 7 その他

富山大学の国際交流の学生団体(名称「partners」)の設立の準備に当たっての支援とアドバイスを行った。

## 8 おわりに

富山大学には346人(2013年5月1日現在)の外国人留学生が在籍しており, 留学生たちがより良い環境の中で安心して留学生活を送ることができるように, 自治体をはじめとする諸団体, あるいは地域の方々の暖かい協力と支援を頂いている。この誌面をかりて感謝の意を表したい。

また, 冒頭に述べたが, 富山大学留学生センターが発展的に解消し, 年度の途中ではあったが, 2013年10月1日より「国際交流センター」と名称を変え, 外国人留学生に対して日本語教育などの指導をするというだけでなく, 富山大学の学生を海外に送り出すという機能と役割を付加した意味合いを持つように位置付けられた。センターの教員, スタッフに課せられた責任は重いものと受け止めなければならないであろう。その上で, センターの教員とスタッフの全員の共通理解をはかり一致協力して,

富山大学の各部局および自治体をはじめとする地域との連携をとりながら、今後の一層の努力が求められると思われる。